

公表

放課後等デイサービススマイリー事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス スマイリー		公表日		令和8年 1月 20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	ベッドが足りない場合、マットを活用する等し、休息できるスペースの確保はしている。	医療的ケアの必要な児童の事業所のため、ベッドが必要となる。足りない場合はマットなどを利用してスペースの確保を継続しま	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2		お休みが多くなった時に、児童より職員のほうが多い時がある。その場合、次の活動の準備などを行っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		バリアフリーにはなっているが構造化は難しく、注目すべき時に目移りする環境になってしまっているため、部屋の使い方の検討は必要かと思われる。体調不良時や見守りが必要な場合、休憩場所での活動を行うことがある。写真や絵カードを提示して視覚的に伝えられるようになっている。	スマイリーに通所したという事が分かるように看板製作に取り組んでいます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		活動の際にスペースを作るなど、その時に合わせた環境設定を心がけている。	活動によっては、空いている部屋を使用し、大型遊具（トランポリン・スイングなど）を使用した活動を行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		カーテンで仕切ることができる。	児童の体調に合わせてベッドを動かして、個別の空間作りを行っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	当日の活動をその日のうちに振り返って話し合う機会を作っている。	朝の会、反省会（一日の振り返り）を設けて、意見が言える場を作っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2		第三者委員の方には業務運営について説明を行っているが、評価していただく場を設けられなかったため改善していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1		様々な機会があるが、業務上、その時間に参加できない職員がいます。時間の調整等、図ってきたいと思っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	4	重心の児童に用いるアセスメントツールの用意がない。	アセスメントツールという面ではまだ準備できていないが、行動観察については日誌に記録しています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	スタッフの人数の兼ね合いもあり、固定しがちとなっている。	慣れた職員が退職した場合、継続した活動ができないことがある。職員の定着は課題となっています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団の中でも個々の能力に合わせた個別の対応を行っている。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6	1		地域交流の機会を設けていない。 創作活動、地域交流の機会の提供、自立支援と日常生活の充実のための活動、余暇の提供を行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			児童一人ひとりが自分の考え・思いで選択できるような声掛けを心がけています。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2		土曜日のみの開所のため、学校と直接のやり取りは行えていないが、相談支援専門員を通じて情報を得ている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	4		土曜日のみの開所のため、普段から学校との連携は難しさがある。担当者会議や保護者からの情報提供での把握に限られている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1		児童発達支援センターに訪問し情報共有を行っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1		児童発達支援センターに訪問し情報共有を行っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3		地域の子どものとの交流には難しさがあり、機会がなかなか持てず。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		事業所の代表者が出席している。 その後、ミーティングにて他の職員にフィードバックしている。	今後も事業所の代表者が出席するようにし、フィードバックを徹底します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	レスパイト的な利用が多いと思われる。	ご家族に参加していただけるような研修の開催を検討します。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		7	保護者同士の関わりが持てる機会を提供していくことも検討が必要と考える。	同法人の他事業所の交流会開催に参加し、保護者の希望などの把握に努めています。当事業所でも開催できるよう検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		法人のInstagramに活動の様子を掲載している。	年3～4回、陽だまり通信（広報誌）を発行し、その中で当事業所が取り組んでいる活動を紹介するコーナーがあります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	1	6		新型コロナウイルス感染症拡大以降、開催できていません。検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			安全計画を作成しています。変更や追加があった際は、その都度、修正しています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1		職員研修については県が主催する研修会に必ず参加しています。また、部内の委員会にも参加している。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			身体拘束については、個別支援計画に明記するとともに、相談支援専門員とも共有しています。	